

■やまカボ・サポーター（意見交換会参加者） 意見聴取結果（主な意見を記載）  
（第4次山形県環境計画中間見直し・カーボンニュートラルやまがたアクションプラン改定）

〇9/12 意見交換会参加者：7名 ＋ ◇書面での意見提出者：3名

参加・意見提出メンバー所属校：

山形大学人文社会科学部、地域教育文化学部、理学部、農学部、米沢女子短期大学、  
東北農林専門職大学農林業経営学部

皆さんが好きな、山形県的环境について教えてください。

- 温泉（クアオルト）、樹氷。果物を中心とした食の面。
- 空が綺麗に感じる、山が常に見える、自然と共存、日常の中で環境に触れられる。

やまカボ・サポーターの活動をやってみたいと思ったきっかけは？

- 環境問題は学校の授業の中でも扱われることがかなり多いテーマとなっており、話を聞く中で、自分も何かアクションを起こしたいと思った。
- 高校生の時からボランティアに関心があり、何かに貢献できれば良いと思った。

山形県的环境に関する計画や取組みについて、皆さんが期待することを教えてください。

- もともと環境に関心のある人だけでなく、関心の薄い人たちの意識をどう動かすかが大切。山形県民の環境意識を高めるためには、蔵王の樹氷の衰えやさくらんぼの不作など、身近な地域の環境問題を発信することが効果的。
- 若者の心を動かすため、興味を持たせるためには、エンタメ要素（きれいな自然や風景を動画にして見せるなど）により、その重要性を理解させることから始めるとよい。
- 学校と連携し、環境問題をテーマにした探究活動を行うことで、若者の主体的な学びと環境意識の向上につながる。

特にカーボンニュートラルについて、皆さんご自身の経験で、見聞きしたこと、感じたことを教えてください。

- 夏は暑い日が多くて冷房を使う頻度が多くなり、二酸化炭素の排出量が増えてさらに地球温暖化が進んでしまうと聞いたことがある。
- 庄内地方で、コンポストなどの資源循環型の取組みが盛んに行われていると感じる。

カーボンニュートラル実現に向けて必要な取組みは、ズバリ何だと考えますか？

- 理想的は「無理なく自然に、また、気づかないうちに対策ができていく」状態。
- 節電等の環境の改善を特に気をつける週を制定し、県民がその週は少しでも意識できるようにする
- 環境保全の効果は数十年後でないと現れず、成果を実感しにくいと感じる。そのため、すぐに利益やメリットを得られる仕組みが重要。
  - ・ 環境行動に対してリターン（得や補助）があることで、人々がより積極的に行動するようになる
  - ・ まずは「面白そう」「やってみたい」と思えることが重要であり、「カーボンニュートラルだからやろう」ではなく、「ポイントが貯まるからやる」といった身近で即時的な動機づけが効果的